

## 第10回サバイバーシップを語り合う公民館カフェ

「がんになっても旅行、どのように計画する？ 全国版 多機能トイレマップを運営する理由」

第10回公民館カフェは2015年6月26日(金)に月島区民館で開催されました。あいにくの雨ふりの天候でしたが、多くの方にご参加いただきました。今回のスピーカーはNPO法人Check代表理事の金子健二さんです。「多機能トイレマップ」の運営活動の様子と今後の展開についてお話いただきました。

### \* 金子さんのプロフィール \*

旅行会社での旅行の企画・営業のご経験から、ご高齢の方等の外出時には欠かせないトイレ情報の不足に気づく。2006年にボランティア団体「Check A Toilet」を立ち上げ、2008年にNPO法人Check(以下Checkと略記)を設立。

<http://www.check.or.jp/>



スピーカーの金子健二氏と司会の高橋部長

ちなみに、Checkは、『だれもが気兼ねなく外出できる社会』をめざして、バリアフリー・ユニバーサルデザインのトイレが検索・登録できる「Check A Toilet」の運営を中心に活動しています。現在のトイレ登録数は54,300件。日本全国に10万個あると言われているすべてのトイレの登録をめざしています。

### ～旅行の計画どう作る？～

「みなさん、明日、直島(瀬戸内海にあるアートで名高い香川県の島)に行くとしたらどういように行きますか？」という金子さんの質問からスタート。参加者のみなさんの想像力が膨らみます(実際に直島にいかれたことがある方も数人)。

健康者であればインターネットで行き方を調べ、JRのみどりの窓口で切符を買えばおそらく行けると思われますが、車椅子ユーザー・小さなお子様連れ・ご高齢の方など介助が必要な方が旅するには、さまざまな課題がありそうです。

その課題とは？

「…大きくザックリまとめて考えるとトイレ・移動手段・バリアフリー・食事対応の4つになります」と金子さん。例えば、車椅子の方と直島に飛行機で行くとすると、高松空港からはフェリー。ではフェリー乗り場までどうやって行くのか？



この他に、

- ・車椅子対応のレンタカーがあるか？
- ・リフト付きのタクシーやバスがあるか？
- ・フェリーはバリアフリーか？
- ・直島自体がバリアフリーか？
- ・道は舗装されているか？
- ・車椅子対応のトイレはあるか？

さらに、  
・宿泊先での食事対応(食物アレルギー・糖尿病や腎臓病などで食事制限・宗教上の理由からの食材の制限・ベジタリアンへの対応など)は可能か？

本当に「？」だらけですね。しかもこのハードルは地方に行けば行くほど高くなり(多くの参加者うなずく)、下調べが重要となります。

### ～正確な情報はどこから？～

情報を検索して正確な情報を得ることができなければ、旅行できないことになってしまいます。それは残念すぎますね。では、どこから情報を得たらよいでしょうか？

金子さんによると、そもそも旅行会社もこうした情報は乏しいそうです。現実的には、地方自治体が発信している情報や観光協会に頼るそうですが、それぞれの自治体が、それぞれの部署で、更新されることのない情報を紙ベースでまとめて提供していることが多いため、情報の一元化にはと

ても届かない現状だったそうです。

そこで、金子さんは、障害者、後期高齢者、3歳児までの子連れの方は日本全国で約2,500万人いるのだから、日本人の5人に1人は多機能トイレ\*を利用するニーズがあると考えました。まずは、先ほどの4課題(トイレ・移動手段・バリアフリー・食事対応)の中でもトイレから解決していくことになりました。

それをかたちにしたのが、「Check A Toilet」です。現在54,300件の登録トイレは、手すりの位置からスペースまで、使い勝手や実際の写真まで無償ボランティアや事業者、自治体からの情報提供に支えられ日々情報を更新。さらにカーナビやグーグル、ナビタイム、マピオンなどの地図のサイトにも情報を提供。またこの情報は、必ずウラをとって修正削除もしていくという精度維持にも努められているとのことでした。

#### 【多機能トイレ\*ミニレクチャー】

金子さんより、健常者が意外と知らない多機能トイレについてのお話がありました。

昔は「身障者専用トイレ」と呼ばれ30年ほど前から作られていました。今では「誰でもトイレ」、「多目的トイレ」、「ユニバーサルトイレ」、「バリアフリートイレ」など呼び名もさまざまです。利用者は、単独で車椅子で使われる方、介助者がいる方、オムツ換えで子どもといっしょに入る方などが多く、車椅子の方でなくても、誰でも使えるというのが最近のコンセプトとなってきて、ユニバーサルデザインということになるとのことでした。

昔は、せっかくなつた多機能トイレも、そこに行くまでのバリアフリー化がなされておらず、活用度が低くなってしまったものもあったようですが、今はそうした点はほぼ改良されているそうです。使用に際しては、十分なスペースの確保、手すりの有無やその位置などがチェックポイントだそうです。とくにコンビニなどで「車椅子対応トイレ」となっている場合でも、実際は狭くて車椅子が回転させられない場合もあるそうなので要注意です。



#### ～社会貢献活動と今後の展開～

「Check A Toilet」の情報更新に向けて、スマートフォンを使った社会貢献活動とを、企業、大学、小学校、高校と連携してやっていますとのこと。たとえば、汐留地区の外資企業や生命保険会社などの企業に参加してもらい、アフター5を利用した活動を展開。さらに、スカイツリーオープン前の地元商店街、横浜みなとみらい地区の大学生なども一緒に街のトイレチェック活動を実施。こうして繁華街のトイレチェックをほぼ終えているとのこと。

次に金子さんは、イベントのユニバーサル化に取り組みました。車椅子の方など配慮が必要な方たちが、イベントに参加できないという問題があったからです。小学生たちとイベントのトイレマップ作りをして、大会事務局に寄贈しました。宇都宮餃子祭りや岸和田だんじり祭りなど、日本全国、さまざまなレベルで多様に展開されている活動事例が紹介されました。さらに、こうした活動は、自治体との共同プロジェクトとして地域全体でトイレをシェアする「地域の公共のトイレ化＝トイレシェアリング」という動きにまで広がっているとのことでした。

最後に、金子さんは、今後の展開を語ってくださいました。ユニバーサルツーリズムとして、トイレに次ぐターゲットを「食の活動」に定めたとのこと。外食で困っているベジタリアン、イスラム教徒、ユダヤ教の人たち、糖尿病、腎臓病、高血圧などの健康を配慮した食事が必要な人たちに対するサービスの事前調査活動をすでに開始しています。今年中に新サービススタートを目指すそうです。さらに、トイレについても2020年の東京オリンピックの地図作成に関わり、会員向けトイレ・寄付型トイレなども視野に入れて活動を展開するとのことでした。



#### ～おすすめ旅行プラン～

「本日のお持ち帰りコンテンツ」として、金子さんから旅行を計画するときのポイントをご紹介いただきました。まずは無理せずゆっくり計画を立てるのがコツ。「日帰りランチ」→「午後出発の日帰り旅行」→「1泊2日の旅行」と段階的に進むのもよいとのことでした。そしていずれの場合も、目的地、移動手段、トイレの順に検討していくとよいでしょうとのことでした。以下をご参考にさせていただきます！

#### 【旅行計画例】

- ・第1ステップ「日帰りランチ」: 自家用車で片道1時間以内に行ける場所を選び、帰りにどこかに寄る(4時間程度の旅行から始める)。
- ・第2ステップ「午後出発の日帰りの遠出旅行」: 東京から横浜、鎌倉など車でゆっくり行く。

- ・第3ステップ「1泊2日の旅行計画」:いきなり朝から出かけるのではなく、ランチを食べた後にホテルに直行。
- ・滞在型旅行か行動型旅行かを定める。

## グループディスカッション

カフェタイムでは、「今までトイレや旅で困ったこと」「こんな旅がしたい、こんなトイレに入りたい」という2つのテーマについて、グループに分かれて話し合いました。いろいろな経験談やアイデアが各グループからあがりました。一部を以下にご紹介します。



### <今まで旅で困ったこと>

- ・半身不随の場合、からだの片側しか使えない。トイレのどこに手すりがあり、どういう構造かの情報がなかったので非常に困った。
- ・トイレの構造によっては、ストーマ交換時にトイレの床に膝をつかなければいけないこともあり、きれいなところが少なくて困った。
- ・車椅子専用トイレが多目的トイレになって、ふさがっているケースが増えて困った。
- ・駅構内のバリアフリールートやトイレが適切な位置になく、かなり迂回することが多い。
- ・お父さんが娘さんを介護している場合に、男女どちらのトイレに入ったらいいのかわからなかった。

### <こんな旅がしたい>

- ・手術の傷跡を見られたくないので、お風呂の洗い場の仕切りがしっかりしているところに宿泊したい。洗い場の仕切りの有無も検索情報の項目に挙げてほしい。
- ・ストーマ着用、傷跡などのある人が安心して入れるように専用時間帯を設けたり、温泉を貸切りにしたりしてほしい。
- ・帯同の看護師やヘルパーの不足を補う有償ボランティアが増えるとよい。フルタイムではなくてもリレー形式で誰かが24時間見守る体制がよい。
- ・車椅子で入れる大浴場(→金子さんコメント:以前実現したホテルがあったが、残念ながら廃業した。)
- ・旅行をしたいというのはみんなのニーズである。

### <こんなトイレがあったらいい>

- ・多目的トイレに介助する人が常駐しているとよい。介助不要なら外に出るようにする。
- ・障害を持つ方に専用コインを配布、そのコインを持つ方が優先的に使えるようにするとよい。
- ・トイレの使用に時間がかかることもある。外で待つ人の列ができないよう、「諸事情で時間がかかります」といった札を気軽につけられるようなシステムがあるとよい。
- ・コンビニなどの共有スペースでどこにトイレがあるか目立つような表示があるとよい。
- ・外でどのくらいの人が待っているかが、中でわかる仕組みがほしい。
- ・清潔なウォシュレットが増えてほしい。また水の勢いが強すぎない「柔らか機能」がすべてのトイレにほしい。

これらのグループ発表を受けて金子さんからは、当人と介護者の性別が異なる場合には、まず共用トイレを、なければ介護を受ける人の性別に合わせるのがよい、それもむずかしい場合もあるが・・・との回答がありました。交通機関の動線やトイレの位置については、古い駅の場合、全体の建て替え以外に改良のしようがないケースが多い側面もあるとのことでした。多機能トイレの利用者が増えたことによる「待ち時間」という課題については、すでにいくつかの対応を考え、実証実験も予定されているので、近いうちに改良される見込みもあるとの説明がされました。

第10回公民館カフェは以上で終了。トイレという身近な問題から、正確で最新の情報と検索方法の提供により、旅行への第1歩が大きく踏み出せると実感できた今回の公民館カフェでした。

(文責:土屋雅子・高橋都)